

大 阪 市 中 教 研 会 報

No. 139

編集者 大阪市立中学校教育研究会
発行人 大阪市立中学校教育研究会
会長 坂 本 政 隆
発行所 大阪市立中学校教育研究会
大 阪 市 立 緑 中 学 校
TEL 06-6911-3688

令和 4 年度 研究テーマ

「よりよい未来社会の創り手となる資質・能力の育成」

～ 学びの質を高めるカリキュラム・マネジメントを通して ～



「総合的読解力」の育成に向けて

大阪市教育局 センター

首席指導主事 三 枝 由佳里

大阪市立中学校教育研究会におかれましては、平素より、本市教育の推進に多大なるお力添えを賜り、誠にありがとうございます。

会員の先生方におかれましては、昨年度に引き続き、「よりよい未来の創り手となる資質・能力の育成～学びの質を高めるカリキュラム・マネジメントを通して～」のテーマのもと、教育の今日的課題を踏まえた研究活動を推進され、本市中学校教育の充実・発展に大きな役割を果たしていただいております。改めて、これまでのご功績に深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

新年度以降、新型コロナウイルス感染症が少しずつ落ち着きを見せているとはいえ、今なお警戒が必要な状況にある中、校長先生をはじめ教職員の皆様におかれましては、児童生徒等の学びを保障するため、長きにわたり、校長先生のリーダーシップのもと、教職員一丸となって、感染症対策と教育活動の両立に大変なご尽力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、「読解力」という言葉が全国的に注目されています。2018年に実施された PISA 調査の結果において、日本の読解力の順位が2015年の 8 位から15位と急落していることが背景にあると考えています。ますます加速する情報化社会の中で、目標や目的にあった「情報を探し出すこと」や「その情報の信ぴょう性を評価すること」、「探し出した情報を根拠に、自分の考えを説明するために表現する力」までを含めた「読解力」が「今求められる読解力」であり、「テキストの読み取り」だけにとどまりがちな学校授業の改善が求められています。

実際に、この課題に対応するため、学習指導要領では次の 2 点が示されております。1 点目は、国語科における指導の充実を図ること、2 点目は、言語能力の育成に向け、各教科で言語活動を充実させることです。

国語の授業で育成する基礎的な読解力を土台としながら、すべての教科で基盤となる「読解力」を育成する必要があると考えております。

大阪市では、各校で学力向上に向けたさまざまな取組を進めていただいていることで、全国学力・学習状況調査において、全国の平均正答率との差は縮小しているものの、いまだ状況が厳しく、特に「記述式」においては、依然として課題があります。この「記述式」の課題解決には、自らの考えを表現する言語活動によって、その考えを形成する「思考力」や「判断力」、考えの根拠となる資料等を読み取る「読解力」を含めた育成が必要であり、国語科だけでなく、すべての教科でその育成を図る必要があります。

そこで、総合的な言語活動を通して、読解力を中心とした思考力・判断力・表現力等を育成するため、大阪市の全小中学校、義務教育学校で活用できる「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、令和 6 年度より、「小中学生からのリベラル・アーツ教育」を全小中学校の小学校 3 年生以上で毎週 1 時限以上実施することが、「大阪市教育振興基本計画」に掲げられました。この「総合的読解力育成カリキュラム」の開発には、指導主事だけでなく現場教員にも「教材作成チーム」として加わってもらい、作成した教材をモデル校などで活用しつつ、修正や見直しを行いながら、子どもたちが学ぶワクワク感や、教科の学びが自らが設定した学習課題の解決に活かしているという実感を味わえる教材にしていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、大阪市立中学校教育研究会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、教員の研究活動を活性化する取組を通して、確かな学力を身に付け、よりよい未来の創り手となる子どもたちの育成をお願いいたします。



「誰一人取り残さない学力の向上のために」

大阪市立中学校教育研究会

会 長 坂 本 政 隆（緑中学校）

会員みなさまには、平素より、大阪市立中学校教育研究会の活動に、ご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。心よりお礼申しあげます。

本研究会は、昭和22年（1947年）に創設され、本年度で75年目を迎えました。この間、大阪市教育委員会のご支援のもと、諸先輩会員の皆様のご努力により、多大な研究成果を残してきております。

令和3年度より、教科書も新しくなり新学習指導要領の全面実施となりました。改訂の方向の一つ目として、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することがあげられます。学びが「何を学ぶか」だけではなく、「どのように学ぶか」、「何ができるか」と重視して授業改善を行い、「学びの質」に着目することであると考えます。

二つ目は、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るため、常に検証し改善していく「カリキュラム・マネジメント」の確立であると考えます。

三つ目は、社会に出てからも学校で学んだことが生かせるよう、次の力をバランスよく育むことと考えます。①実際の社会や生活で活用できる「知識及び技能」。②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」。③学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」。学校だけでなく、保護者や地域の方々、行政、企業等の様々な人々や組織と連携・協働しながら、次代に生きる子どもたちを育成する「社会に開かれた教育課程の実現」をめざします。

新学習指導要領は、2030年後以降を見据えた、めざすべき「未来の子どもの姿」を想定しています。テクノロジーの発展やグローバル化によって複雑化する社会における「答えのない難問」を解決するには、単一の専門領域に関する知見だけでは足りません。幅広い知識を持ち、さまざまな角度から物事を考えられる柔軟な思考が必要となります。物事には「正解」があっ

て、「正解」を求める学習をしてきました。しかし、社会で起こっている物事にはさまざまな要因が絡み合っており、いろいろな見方があります。一つの正解を見出すことは困難であるといえます。社会のいろいろな問題に対処するために、物事を多角的に判断できる幅広い教養を持った人材が求められます。

令和4年に、大阪市教育振興基本計画が新たに策定されました。誰一人取り残さない学力の向上のため、すべての学力の基礎となる読解力・言語能力を向上させることにより、思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。そのため、モデル・カリキュラムや教材等を開発し、実践する時間を確保し、取り組んでいくことをめざします。

また、「小中学生からのリベラル・アーツ教育」と題し、情報を正しく読み取り要約することに加え、読み取ったものから考えを形成すること、これらができる力を総合的読解力とし、この総合的読解力の育成をめざすものとしています。

本研究会では、会則にもとづき「特別研究部」を設置し、各校における「総合的読解力育成」の教育活動におそれながらご支援できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

感染症対策で、本来の研究活動が十分にできておりません。しかしながら、「研究をとめない、子どもの学びをとめない、子どもの成長をとめない」の思いのもと、ブロック研究発表会ならびに全市研究発表会をはじめ大阪市の研究活動の推進に、本研究会は全力でお力添えする所存でございます。

最後になりましたが、大阪市教育委員会ならびに大阪市教育センターの皆様方には、本研究会の活動にご指導ご鞭撻をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

新 部 長 の あ い さ つ

国 語 部

「生きる力」としての国語力の育成

— 自分の思いや考えを深める言語活動の充実 —

赤 坂 寛 臣（今市中）

国語部は、今年度も「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善で、「自分の思いや考えを深める言語活動の充実」をめざし研究を進めます。子ども

たちの「生きる力」としての国語力が育成できる、そんな指導のモデルとなるような授業を提案していけたらと考えています。

また、本年度は新たに大阪市教育局振興計画が策定され、「総合的読解力育成の時間（小中学生からのリベラルアーツ教育）」が実施されることになりました。総合的読解力育成についての研究の要としての役割を

果たせたらと考えています。これからも多くの先生方のご協力をいただきながら、子どもたちによりよい教育が行えるよう頑張ってまいります。よろしくお願いいたします。

理 科 部

『自ら課題を発見し解決する力を養う』

谷 塚 高 雅（加 美 中）

現代は、人工知能（A I）やロボットの急激な進化により社会が大きく変わろうとしています。これからの未来社会を生きていく子どもたちに必要なことは、人間にしかできないクリエイティブな能力を磨くことにあり、理科教育においては、「観察・実験」などを通して、自ら課題を発見し解決する力を養うことが期

待されています。

理科部では、専門委員が新学習指導要領に即した調査・研究、教員研修、生徒理科研究発表会などを実施します。皆様の積極的な参加の程、よろしくお願いいたします。

英 語 部

「PDCA サイクルを用いて主体的に資質・能力向上できる生徒の育成」

～ その資質・能力を最大限に生かして主体的にコミュニケーションがとれるカリキュラムの構築を通して ～

松 村 隆（我孫子南中）

昨年度より全面実施となった新学習指導要領では、学校教育の改革を進めるための新たな「カリキュラムマネジメント」が求められています。子どもたちの資質・能力を生かし、「主体的・対話的で深い学び」に通じていく指導方法を発展させていく必要があります。コロナ禍の中であって、英語学習を進める上で、マスクをつけたままでの学習はマイナス要因が大変大きかったかと思います。これからの感染拡大の状況によって、

さらに工夫を重ねていく必要はあるでしょうが、今生徒たちがしっかりと身につけていくべき方向を見つめながら、また英語学習の楽しさを、学ぶ者も指導する者も、少しでも多く感じられるような研究活動になってほしいと願っております。更には、現在の国際情勢を鑑みて、広い視野からの国際理解を深め、国際協調の精神を養うことにもつながればと思っております。どうぞ皆様のご協力をお願いいたします。

保健養護部

「養護教諭の専門性と資質の向上をめざして」

安 藤 亜 紀（巽 中）

子どもたちの心身の健康問題は、急速な社会環境や生活様式の変化に伴い、ますます複雑化・深刻化しています。

生活習慣の乱れや心の健康問題、アレルギー疾患や性に関する問題や薬物乱用、自然災害や事件事故。また、新型コロナウイルス感染症など、それぞれに応じた危機管理と、それに伴う子どもの心のケアが重要となり、新たな課題が顕在化しています。

保健養護部では、養護教諭が、時代とともに変化する

るニーズに応じ、その専門性を生かす場として、保健室を機能させていきたいと考えています。全市研究発表会をはじめ、専門性の高い学習会や、経験の浅い先生方が、交流し、学ぶことのできるスキルアップ研修会を開催し、今後も養護教諭が専門職としての力量を高めるべく、有意義な研究活動ができる場となるよう努めてまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本部だより

令和 4 年度 大阪市立中学校教育研究会全体会 5月25日(水)に紙面上で実施しました。

研究主題

「よりよい未来社会の創り手となる資質・能力の育成」
～ 学びの質を高めるカリキュラム・マネジメントを通して～

ブロック研究発表会 基準日 9月2日(金)
全市研究発表会 10月12日(水)開催

《事業の種類》

- ① 学校を基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進
- ② 研究部・ブロック委員会の研究活動の深化・充実
- ③ 全市研究発表会の推進と研究・研修活動の充実
- ④ 「中教研会報」・「研究の歩み」の内容の充実、研究活動の動向や成果の伝達
- ⑤ 教育委員会・教育センター・校長会・小学校教育研究会等、関係団体との連携

《当面の課題》

- ① 学習指導要領に基づく教育課程の編成と基礎学力の充実についての研究
- ② 総合的読解力育成（「小中学生からのリベラル・アーツ教育」）についての研究
- ③ 資質・能力の向上を促す、指導・評価方法の工夫・改善についての研究
- ④ I C Tを効果的に活用した教育実践の研究
- ⑤ いじめ・不登校・問題行動の研究
- ⑥ 各研究部・各ブロック・各学校における研究体制の整備
- ⑦ 小中が連携、一貫した教育についての研究
- ⑧ 各種研修・研究会への参加を通しての教職員の相互研鑽・職能開発
- ⑨ その他教育上の諸問題の研究

評議員会報告

第1回 5月25日(水) 15時～

於：大阪市教育センター7階研修室4

- (1) 令和3年度 事業報告
- (2) 令和3年度 会計決算報告
令和3年度 会計監査報告
- (3) 役員選出について
- (4) 令和4年度 事業計画並びに予算案
- (5) 会則改正について
- (6) 「特別研究部」の設置について
- (7) 9月2日基準日のブロック研究発表会について
- (8) 連絡事項
 - ① 専門委員会での協議事項
 - ② 今後の評議員会の日程について
 - ③ 会計関係について
 - ④ 会報、研究の歩みについて

第2回 6月8日(水) 16時～

於：大阪市教育センター8階音楽研修室

- (1) 令和4年度 研究活動について
 - ・全市研究発表会の持ち方について
 - ・各ブロックの研究について
 - ・中教研会報・研究収録「研究の歩み」の発行について
 - ・研修会について
- (2) 令和4年度 予算案について
- (3) 総合的読解力特別研究部について
- (4) そ の 他
 - ① 令和4年度 役員・専門委員一覧表について
 - ② 部門別・ブロック別 研究主題・事業計画について
 - ③ 令和4～6年度 全国・近畿大会予定表について
 - ④ 連絡事項
 - ・教育センター直接執行分について
 - ・会費の徴収・納入事務について
 - ・ホームページの更新について

令和4年度 部門別研究主題

No.	部 門	研 究 主 題
1	国 語	『『生きる力』としての国語力の育成』 ～自分の思いや考えを深める言語活動の充実～
2	社 会	「持続可能な社会の形成者として、社会的な見方・考え方を深める社会科学習」
3	数 学	「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」
4	理 科	「主体的な対話を通し、未来を担う科学的な思考・表現力を育む理科教育」 ～ICT機器活用の工夫～
5	音 楽	「未来をきり拓く、豊かな感性を育む音楽教育の創造」 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
6	美 術	「美術科の本質に迫る学習をめざして」 ～感性や造形感覚を高めるために～
7	保 健 体 育	「ソーシャルディスタンスを確保した保健体育授業づくり」 ～格技（なぎなた）授業の研究～
8	技術・家庭	「いのち輝く未来社会を実現（創造）する技術・家庭科教育」 ～深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践～
9	英 語	「PDCA サイクルを用いて主体的に資質・能力向上できる生徒の育成」 ～その資質・能力を最大限に生かして主体的にコミュニケーションがとれるカリキュラムの構築を通して～
10	道 徳	「多面的・多角的な視点で考え議論する道德教育の創造」 ～ペアワークやグループワークを取り入れた授業づくりを進める～
11	特 別 活 動	「生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造」
12	生 活 指 導	「生徒指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する」
13	特別支援教育	「子どもたち一人ひとりが、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして」
14	保 健 養 護	「養護教諭の専門性と資質の向上をめざして」
15	情 報 技 術	「カリキュラム・マネジメントの充実をめざして」 ～新学習指導要領を見すえ、社会に開かれた教育課程の確立～
16	教育メディア	『『生きる力』と『感動する心』をはぐくむ教育メディアの研究』 ～学校図書館、放送・視聴覚教育を通して～
17	教 育 課 題	「未来を切り拓く力をはぐくむ教育課程の編成」

令和4年度 ブロック別研究主題・発表会日程

ブロック	研 究 主 題
1 ブロック	「豊かな心の醸成と社会の変化や課題に対応できる資質・能力の育成」 ～「新たな学び」の実践と交流～
2 ブロック	「主体的で、協働的な学び手を育む教育の創造」 ～「つながり」を生かした学びの場を通して～
3 ブロック	「豊かな心の醸成と持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成」 ～新しい未来の姿を構想した実践交流～
4 ブロック	「見方・考え方を働かせ資質・能力を育み豊かな未来を切り拓く教育の創造」

令和 4 年度 役員・評議員

令和 4 年度、役員・評議員が下記のとおり決まりました。（敬称 略）

【大阪市教育委員会】

初等・中学校教育担当	総括指導主事	田 中 秀 樹
大阪市教育センター	指導主事	細 谷 典 史

【本 部 役 員】

会 長	坂 本 政 隆 （ 緑 ）
副 会 長	松 井 信 次 （上 町）
同	上 田 健 二 （大 池）
同	大 政 和 彦 （東 淀）
書 記	松 田 光 平 （大 正 北）
会 計	杉 山 邦 彦 （大正中央）
会 計 監 査	高 橋 章 二 （天 王 寺）
同	小 西 絵 美 （友 渕）

【本部役割分担一覧】

● 全市研究発表会、 ブロック研究発表会の調整 等	（松 井）
● 企画立案、研究の歩み、会報の編集、 HP担当 等	（上 田）
● 研修計画、教育課程（言語活動）、 小中一貫教育担当 等	（大 政）
● 名簿作成、議事録作成、 案内状発送、報告書作成 等	（松 田）
● 会計、予算、事業報告書作成、 決算報告書作成 等	（杉 山）
● 会計監査、会場準備、資料配布 等	（高橋・小西）

【部 長】

1	国 語	赤 坂 寛 臣 （今 市）
2	社 会	小野寺 健 （新 豊 崎）
3	数 学	中 西 啓 （ 佃 ）
4	理 科	谷 塚 高 雅 （加 美）
5	音 楽	有 田 伸一朗 （大 淀）
6	美 術	石 川 文 子 （東 陽）
7	保健体育	田 中 城 明 （横 堤）
8	技術・家庭	村 上 美津子 （新 東 淀）
9	英 語	松 村 隆 （我孫子南）
10	道 徳	田 中 紹 亮 （港 南）
11	特別活動	進 藤 文 代 （白 鷺）
12	生活指導	屋 島 豊 市 （十 三）
13	特別支援教育	金 森 茂 生 （矢 田 西）
14	保健養護	安 藤 亜 紀 （ 巽 ）
15	情報技術	近 藤 正 宏 （本 庄）
16	教育メディア	田 村 敬 子 （相 生）
17	教育課題	上 田 明 （茨 田 北）

【ブロック委員長・副委員長】

第1ブロック委員長	土 屋 雅 （大 桐）
第1ブロック副委員長	井 寄 芳 春 （咲くやこの花）
第2ブロック委員長	渡 邊 進 司 （都 島）
第2ブロック副委員長	阿久津 弘 治 （大 宮）
第3ブロック委員長	児 玉 敏 和 （成 南）
第3ブロック副委員長	吉 次 憲 保 （梅 南）
第4ブロック委員長	横 田 勝一郎 （東 住 吉）
第4ブロック副委員長	南 義 徳 （長 吉 西）

令和 4 年度 教育研究会予算

（令和 4 年 7 月 4 日 現在）

1. 歳 入

（単位：円）

2. 歳 出

（単位：円）

項 目	令和 4 年度 予 算 額
会 費	2, 0 0 0, 0 0 0 (見込み)
補 助 金	※2 0 0, 0 0 0
繰 越 金	3, 1 1 2, 5 7 6
預 金 利 息	0
合 計	5, 3 1 2, 5 7 6

項 目	令和 4 年度 予 算 額
本 部 事 業 費	3, 1 0 7, 5 0 9
研究部事業費	1, 7 2 5, 0 6 7
ブロック事業費	4 8 0, 0 0 0
合 計	5, 3 1 2, 5 7 6

※日本教育公務員弘済会研究助成金